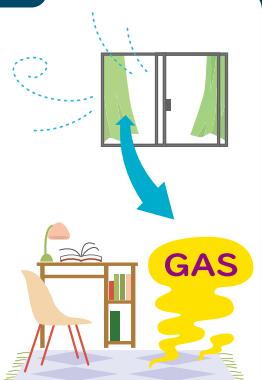


LPガス家庭用周知文書①

抑えておきたいLPガスの特徴と注意

1 安全のためにニオイが付いています

漏れ出た際にすぐ気づけるように、硫黄系の化合物であえて匂いを付けています。



2 燃焼には大量の空気(酸素)を使用します

酸素が不十分な場合、不完全燃焼を起こしCO(一酸化炭素)が発生するため大変危険です。室内で使用する際は十分に換気を行いましょう。

3 低い場所にたまりやすい

空気と比べて重いため、低い箇所にたまります。万が一ガス漏れがあった場合は、特に下の部分の風通しを意識して換気しましょう。

ご自身で行わないといけないガス機器の管理があります！

■ LPガスを使用するために必要な設備には

- ①供給設備(LPガス容器からマイコンメータまで)と②消費設備(マイコンメータ出口からガス機器まで)があり、②の法律上の管理責任はお客様にあります。



■ りゅうせき販売店の定期的な点検・調査

LPガスを使用される皆様の安心・安全のために①～③を行なっています。

- ①容器交換ごとにLPガス容器などの外観点検
- ②年1回以上のガス漏れ調査(対象:地下室設置のもの)
- ③原則として4年に1回以上:ガス設備全般についての点検・調査を行っておりますので、ご協力をお願いいたします。

※点検・調査の結果、指摘があった設備については、法律上改善の必要があります。

こんな時は、りゅうせき販売店に連絡を！

- ガス設備の工事や新しくガス機器を取り付けるとき、または取りはずすとき。
- 新築・改装・転居などで、新しくLPガスを使うとき、またはやめるとき。
- ストーブなどの季節的機器で、取り付け・取りはずしが困難なとき。
- 長期間使用していないガス機器を使用するとき。
- 台風・洪水等の災害で容器やLPガス設備が浸水したとき。
- 容器が転倒したとき。

※配管、風呂がま、湯沸器、煙突などにかかる工事を行なうときは、法律上の資格が必要です。

※風呂がまや湯沸器の中には給気口や排気設備が必要な機種があります。

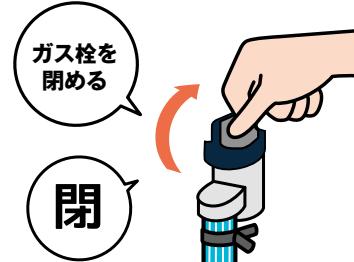


●ガス以外の工事(リフォーム、住宅塗装工事、水道工事など)によるガス管損傷の事故が起きています。
ガス以外の工事を行なうときには必ずりゅうせき販売店にご連絡ください。

ガス使用前後の注意点

■ ガス栓に関する注意点

- ガスを使用する際は、必ずガス栓を全開にしてください。
- ガスを使わない時は、ガス栓を完全に閉めてください。外出、就寝前には、ガス栓、器具栓が閉まっていることを確認してください。
- 配管やガス栓をアースの代わりに使用しないでください。
- ガス機器(こんろなど)に接続されていないガス栓は、絶対に開けず、ガス栓カバーやゴムキャップの装着を行いましょう。



ガス機器の接続に関する注意点

■ 必ずLPガス用のガス機器を使用してください

(都市ガス用ガス機器はご使用いただけません)

新しくガス機器をご使用の際は、製造会社の銘板などでLPガス専用の機器であることを確認してください。



- ガス栓に適合するLPガス用ゴム管(オレンジ色)または専用ホースを使用してください。
- ガスもれ防止のため、湯沸器や風呂がまなどの固定式のガス機器とガス栓の接続にゴム管を使用することは禁止されています。
- ゴム管は、過度に長いものを使用しないでください。
- ゴム管は、ガス栓の赤い線のところまで差し込んで、ホースバンドでしっかりとめてください。
- ゴム管は、物かけを通したり、折り曲げたりしないでください。
- 三つ又は危険なので、絶対に使用しないでください。
- ゴム管はときどき点検し、ひび割れや焼け焦げなどの発生しているゴム管は使用しないでください。ゴム管からのガス漏れの点検は、石けん水を塗り泡が出るかで分かります。(泡が出た場合は、すぐに新しいゴム管に取替えてください。)点検後はきれいに拭き取ってください。



こんろの点火／通常・異常時の見分け方

■ 赤い炎は「不完全燃焼(酸素不足)」のサイン

ガスこんろの炎は、青色が正常です。
赤色の炎は不完全燃焼が起きている証拠。ガスこんろの自目詰まりなどが原因で起きることがあります。
器具ブラン等を用いて、しっかりお手入れをしましょう。

※ネジを取り外す必要がある場合ご自身で勝手に行なわず、りゅうせき販売店へご連絡ください。



調理時に注意すること

- 点火・消火は必ず目で確かめてください。

- ガス機器の近くに、燃えやすいものは置かないでください。
- マッチやチャッカマン等にて点火する場合には、マッチやチャッカマン等を先に点火してから器具栓を開いてください。
- 風や煮こぼれで火が消えたり、天ぶらを揚げているときに、鍋の中の油に火がつくことがあります。ガスを使っているときは、その場を離れないようにしてください。

- ガスを使っている時は、着衣への着火にご注意ください。
※やむを得ずその場を離れる場合は、火を消して安全を確認してください。



LPガス家庭用周知文書②

災害が起きた場合の対処法について

■ 地震

まずはご自身の身を守る行動を!揺れがおさまったらガス栓や器具栓を閉めてください(火はすべて消してください)。揺れが大きかった場合は、屋外にある容器バルブも閉めてください(閉め方は右記参照)。

震度5以上でLPガスは、「ガスマーター」により自動で供給停止します。



■ 台風・洪水

容器にぐらつき等の不安がある時は販売事業者にまでご連絡ください。容器やLPガス設備が浸水や転倒した時はりゅうせき販売店または保安機関にご連絡ください。

強風によりLPガスが自動で止まる場合があります。



ガスが漏れた場合の対処法

ガスのニオイがしたり、ガス警報器が鳴った時は、火気は絶対に使用しないでください!!

ガスのニオイがしたり
ガス警報器が鳴った時
ガスの注意事項

- 室内の火はすべて消してください。
- コンセントやスイッチに触れないでください。火花が出てガスに着火する恐れがあります。
- ドアや窓をすべて開けて空気を入れ替えてください。LPガスは空気より重いため、低いところにたまります。
- すべてのガス栓、器具栓を閉めてください。
- 容器バルブも閉めてください。



ガス漏れはりゅうせき販売店または保安機関(緊急時の連絡先)にご連絡ください!

- 連絡時は氏名、住所、ガスの状況をお伝えください。
- りゅうせき販売店または保安機関の点検を受けるまでガスを使わないでください。
- ※万が一、LPガスによる災害が発生した場合もご連絡ください。

ガス警報器の取り扱い方・注意事項

- 警報器が適正な位置に設置されているかを確認しましょう。
- 警報器の電源プラグは常にコンセントに差し込んでおきましょう。特にガス警報器が鳴った際、原因が不明の状態でコンセントを抜かないでください。
- 警報器の周りには物を置かないようにしましょう。
- 警報器の交換時期が過ぎていないか確認しましょう。

※共同住宅、学校、病院などの人が多く集まる施設、地下室等に燃焼機器が設置されている場合には、法律によりガス警報器(LPガス用)の設置が原則的に義務づけられています。



ガス機器の安全装置や機能について

マイコンメータ

ガス漏れ等でガスの流れや圧力などに異常が出た場合、マイコンメータは自動的にガスを遮断します。(震度5相当以上の大きな地震の際も自動でガスを止めるなどの保安機能を搭載)



集中監視システム

お客様のLPガスの利用状況を24時間365日見守り、異常を感知すると販売店等から連絡に入るなどの適切な措置を行うシステムです。



ガス警報器

ガス漏れをすばやく感知し、ブザーや音声で知らせます。



Siセンサー搭載

すべてのバーナーに安全センサーを搭載したガスこんどうです。

<安全センサー装置および機能>

- 立消え安全装置: 煙こぼれや吹きこぼれ、強風などで火が消えた時、自動的にガスを止めます。
- 調理油過熱防止装置: センサーが鍋底の温度を感じ、約250°Cになると自動的に油の発火を防ぎます。
- 消し忘れ消火機能: 消し忘れて、点火後一定時間が経過した時点で自動消火します。



CO(一酸化炭素)中毒に注意しましょう ~防止するための器具のご案内~

CO(一酸化炭素)警報器



不完全燃焼で発生したCO(一酸化炭素)を感知し、ブザーと音声で知らせます。

屋外設置式の給湯器



屋外の空気を使って燃焼し、排ガスも屋外に排出するため、不完全燃焼対策に有効です。省エネ性能にも優れています。

不完全燃焼防止装置付き小型湯沸器



不完全燃焼が発生した場合、ガスを自動的に止めます。

住宅用火災・CO(一酸化炭素)・ガス警報器



(注)本商品は火災・CO(一酸化炭素)を併用して检测するより安全です。
火災・CO(一酸化炭素)・ガスもれを感知し、ブザーと音声で知らせます。

小型給湯器やガストーブ等をご使用の皆様への注意事項



必ず換気(給気と排気)をしてください!

*CO(一酸化炭素)は無色無臭で極めて毒性が強いです。換気不足でCO(一酸化炭素)中毒を起こし死に至った事故例があります。

- ガス機器の使用時は換気扇を回したり、ときどき窓を開けて十分に換気をしてください。冷暖房中も忘れずに!

*ガスの燃焼には、空気を必要とします。換気が十分に行われないと、酸素不足により

不完全燃焼を起こし、有害なCO(一酸化炭素)が発生する恐れがあり大変危険です。

*点火時やご使用中に火が消えてしまう場合は、安全装置が作動している可能性があります。

再点火せず、直ちに使用を中止し、ガス機器の購入先やりゅうせき販売店または保安機関(緊急時の連絡先)にご連絡ください。

●排気のファンが、ほこりなどで目つまりしていないか確認してください。

●小型湯沸器をお風呂に使ったり、シャワーとして使用することは絶対におやめください。

自然排気式の風呂がまをご使用の方に



- 煙突付き「自然排気式風呂がま」をご使用の際は、換気扇を使用しないでください。

気圧の変化により排ガスが逆流しCO(一酸化炭素)中毒を起こすことがあります。

●排気筒が壊れていたり、鳥の巣などで塞がれると適切な排気ができなくなります。

こまめに点検して下さい。

ご要望により、CO(一酸化炭素)点検を実施いたします。CO(一酸化炭素)点検で異常があったガス機器は、直ちに交換してください。不完全燃焼防止機能がついていない又は老朽化したガス機器は、早めに交換してください。